

科目名	科目種別	授業番号		時期	曜日	時限	単位数	教室
		博士前期	博士後期					
理工系博士人材のキャリア形成	大学院 全学共通科目	W0500	W0600	後期 I	月曜	5限	1	Zoom 開講
担当教員	備考							
林 祐司 (大学教育センター・教授)	<p>・Zoom の URL、ID・PW は、kibaco で本科目を自己登録して確認すること。分からない場合には、kyomu-kikaku@mj.tmu.ac.jp (教務課教務企画係) に問い合わせること。</p> <p>・履修登録は教務課にて行うので履修登録希望者は初回授業に必ず出席すること。</p> <p>・本科目の単位が課程修了に必要な単位に含まれるかを各自所属する専攻・学域内でよく確認すること。</p>							
①授業方針・テーマ	この授業では理工系博士人材の民間企業におけるキャリアについて議論します。							
②習得できる知識・能力や授業の目的・到達目標	本学で理工系博士の学位を取得した先輩たちが、博士後期課程で培った力をもとに数々の民間企業においてどのように活躍しているかを知ることにより、自分自身の将来について過度に悲観することも楽観することもなく、現実的な期待を持てるようになることを授業の目的とします。							
③授業計画・内容 授業方法	<p>【授業計画・内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (博士後期課程の就職活動に関するデータ等について講義します) 2-5. 民間企業で活躍する修了後 5 年以内程度の本学博士後期課程修了者による講演を聞く (4 名を予定) 6-7. 過年度の講演を文字起こしした記録をもとに皆で議論する 8. 授業のまとめ (レポートに書いたことを口頭報告の上、その場で提出してもらいます) <p>第 2 回から第 7 回は順不同です。講演者の都合により入れ替えます。 講演の柱は次の通り講演者をお願いしております。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在学時の研究活動と現在の仕事 2. 初職での就職活動、もしあれば転職時の就職活動 3. 理工系博士人材である自分がどのように評価されているか 4. 在学時に獲得した知識、スキル、能力ほかを活用しているか 5. 入職後の予想と実際の違い 6. その他、後輩に伝えたいこと <p>【授業方法】第 1 回、第 8 回は教員による講義を行います。第 2 回から第 5 回は修了生による講演を行います。第 6 回と第 7 回は、過年度の講演の文字起こしを読んできて履修者で議論します。</p> <p>講演者からは多様な考えや経験が提示されると思います。それらの間に優劣があるわけでもありませんし、何か正解があるわけでもありません。講演者が来てくださるときはお話をじっくり聞き、何か気になることがあったら講演者に尋ねてみてください。過去の講演の文字起こしから勉強するときは、自分の考えを他の履修者に伝えるとともに、他の履修者の考えに耳を傾けてください。そうすることで、どのようにキャリアと向き合うのが自分に合うのかを考え、皆さんそれぞれの事情に応じ、自分なりにキャリアに関する考えを持てるようになると思います。</p>							
④授業外学習	過年度の講演の文字起こしをもとに皆で議論する際は、事前に文字起こしを履修者に配りますので、授業時間前に読んできて、気になるところや重要と思われるところを整理してきてください。							
⑤テキスト・参考書等	とくになし。							
⑥成績評価方法	<p>授業への参加とレポートで評価します。</p> <p>レポートには、授業を受けてキャリアに関する考えに変化したことがあればそのことを書き、従来の考えについて改めて確認できたことがあればそのことを書いてください。</p>							
⑦質問受付方法 (オフィスアワー等)	講演はインタラクティブにやりとりできるようにお願いしておりますので、講演者への質問は講演の時間内に十分にできるようになっています。担当教員への質問は授業後にして下さい。							
⑧特記事項(他の授業科目との関連性)	<p>履修登録しない方も、たとえば自分の所属を修了した方の講演だけを聴講するといったことは可能ですし、歓迎します。また、すでに学位を取ったポストドク等の方で民間企業への転進を考えている方にも参考になるかもしれませんので関心があるようならいらして下さい。いずれの場合も特別な手続きは不要です。学内の掲示を参考に、当日教室までいらして下さい。</p> <p>ただし、私の見るところ、人から聞いた話を参考に自分のキャリアを考える際、聴講者と講演者の学問分野の類似性と同じくらい、リスクへの態度など、パーソナリティが類似していることも重要です。学問分野は修了学科から一目瞭然としておりますが、パーソナリティは分かりませんので、時間に都合をつけて、より多くの方々の講演を聞かれるとよいように思います。</p> <p>【他の授業科目との関連性】とくにありません。皆さん、自分の研究を頑張りましょう。</p>							